



日本国際飢餓対策機構(Japan International Food for the Hungry: 略して JIFH) は、イエス・キリストの精神に基づいて活動する非営利の民間海外協力団体 (NGO)です。1981年に誕生して以来、世界の貧困・飢餓問題の解決のために、自立開発協力、教育支援、緊急援助、人材育成、海外スタッフ派遣、飢餓啓発などに活動を広げてきました。現在は、国際飢餓対策機構連合(Food for the Hungry International Federation) の一員として、20ヵ国 60の協力団体とともに、アジア、アフリカ、中南米の開発途上国で、現地パートナーと協力しあって、「こころとからだの飢餓」に応える動きをしています。

飢餓対策ニュース 第303号 発行日 2015年9月20日 (毎月20日発行) 定価 15円

1 分間に17人 (内12人が子ども)
1日に2万5,000人
1年間では約1,000万人が
飢えのために生命を失っています。



一般財団法人

日本国際飢餓対策機構

2015

10

No.303

飢餓対策ニュース

わたしから始める、世界が変わる

10月16日は世界食料デー

ケニアのケバガレ・スラムにて
「JIFHが支援するコイン
ニア教育センター」の活動地

飢餓を「自分事」として見る

数々の潜在的リスクと根強い反対運動の中、全国初となる新規制基準に基づく川内原子力発電所1号機が稼働を再開し、9月10日午後4時には営業運転に移行しました。原発の再稼働を急ぐのは何故なのか。エネルギー安全保障の観点から、化石燃料の枯渇、CO₂に代表される温室ガスの排出などがあり一定量、原発に依存せざるを得ないといえます。すでに地球環境エネルギー消費量が持続可能な成長の限界を超えていると言われている中、便利で豊かな生活の高嶺をさらに目指す私たちの経済活動は、原発に頼る経済成長最優先の生き方を選択し続けているのです。

このような限りない「豊かさ」を追求するのではなく、「満ち足りる」生き方へ方向転換が必要ではないでしょうか。先進国の繁栄の裏側で途上国の飢餓や貧困に喘ぐ人々、欧州に殺到する中東からのおびただしい難民の方々が「他人事」となっていないでしょうか。

今月は各地で食料デー大会が開催されます。現在もなお途上国に生きる子どもたちを取り巻く環境は、危機的な状況です。飢餓が原因で命を落とす子どもたちは、5秒に1人、1分間には約12人、1日では19,000人、1年で

は690万人にも上っています。

JIFHは、せっかく生まれてきながら生きることを拒まれるがごとく状況を何とか解決したいとの強い思いを持って、支援者の方々と共に、貧困のゆえに教育を受けられない子どもたちへの教育支援、なんとか学校には行けたとしても空腹のために集中して勉強できない子どもたちへの給食支援、またその両親の自立を助けるための職業訓練などを行っています。そして、その子どもや家族が、そしてそのコミュニティが自立へと向かうために支援をしています。この思いを各世界食料デー大会の実行委員の皆さんと共有して、この活動に賛同してください。

私たちが今一度立ち止まり、飢餓・貧困に苦しむ人々に目を留め「自分事」として手を差し伸べて行くことが「共に生きる」世界の実現への一歩となるはずです。途上国の人々への支援、また子どもたちのサポーターとなって「受けるよりも、与える方が幸いです」という、分かち合う喜びの人生に皆さんも共に加わっていただきたいと思います。

世界里親会

里子にクリスマスカードを送ろう!!

クリスマスまでに各地域の里子にカードを届けるために、11月13日(金)までに大阪事務所に到着するようにご協力ください。それ以降の分もお預かりしますが、里子に届くのが遅れる場合がありますので予めご了承ください。

※「大阪事務所でカード受領」のお知らせが必要な方は、その旨お書き添えください。

◇ バングラデシュ伝統の刺繍

「ノクシカタ」

シリーズ第2弾

ポケットティッシュケース

【ファスナー付ポケットつき】

バングラデシュの女性へ

の自立を支援する商品

1つ税込800円 送料200円 合計1,000円

※4つ以上まとめてお求め頂くと送料無料

※色をご指定下さい。黒、きなり、ピンク、青

★国際協力カレンダー 好評発売中★

「地球家族」2016年版のお申込も受付中

【問合せ】フェアトレード通販キングダムビジネス

〒540-0026 大阪市中央区内本町1-4-12NPOビル402

TEL:06-6755-4877 FAX:06-6755-4888

Web: キングダムビジネスで検索。

※クレジット決済が可能になりました。



2015 世界食料デー 各地で開催中

国連「世界食料デー(10月16日)」に合わせて、全国各地で「世界食料デー大会」が開催中です。ぜひ会場にお越し下さるとともに「あなたの一食分募金」にご協力ください。大会日程は飢餓対策ニュース9月号(前号)やウェブサイトでご確認ください。

(JIFH 世界食料デー事務局より)

2015年世界食料デーでは、国連世界食料計画(WFP)の後援はございません。配布されたチラシやポスターに後援:国連世界食料計画(WFP)やロゴが記載されていますが、これを訂正いたします。

阪神マートン選手を招きチャリティイベント

東大阪中央ロータリークラブ

9月14日、東大阪中央ロータリークラブのご尽力で阪神タイガース マット・マートン選手(プロ野球)を招いて、シェラトン都ホテル大阪でチャリティイベントが開催されました。

今回で2回目のこの催しは「JIFHの活動にぜひ協力したい」とのマートン選手のご厚意で実現。約160名参加の会場はマートン選手が入場すると熱気と歓声に包まれました。トークショーでは野球の事やファンへの感謝、クリスマスチャンとしての生き方などが語られました。

マートン選手のサイングッズや愛用品のオークションの収益は、ケニアのシープケア学校給食支援として寄付されます。



ハンガーゼロ
サポーターを
大募集中!!

現在...

3 | 9 | 8 | 7 | 0

今すぐ
各種支援の
お申し込み
ができます!!

●まず右の必要事項に記入して、点線の枠部分を切り取りハガキに貼って、下記の大阪事務所宛に郵送、又はこの頁をコピーして、ファクシミリで申し込みください。確認のための必要書類等を送らせていただきます。
お電話でも申し込みできます。各事務所までおかけ下さい。

- ☐ ハンガーゼロ・サポーターとして協力します。
毎月 () 口 (1口 1,000円)
- ☐ チャイルド・サポーター(世界里親会) になりたいので説明書(申込書)を送ってください。
- ☐ 海外スタッフ・サポーターとして協力します。
毎月 () 口 (1口 1,000円)
- ☐ JIFHサポーターとして協力します。
毎月 () 口 (1口 500円)
- ☐ 郵便自動引落し申込書を送って下さい。
- ☐ その他の銀行自動引落し申込書を送って下さい。

フリガナ
氏名: 男・女

〒

フリガナ
住所:

.....

(電話)

▼申込日: 年 月 日▼NL 302号

FAX・072-920-2155

大 阪 〒581-0032 八尾市弓削町 3-74-1
TEL (072)920-2225 FAX (072)920-2155
東 京 〒101-0062 千代田区神田駿河台 2-1 OCCビル 517号室
TEL (03)3518-0781 FAX (03)3518-0782
東 北 〒980-0012 仙台市青葉区錦町 1-13-6 エマオ 2階 E
TEL (022)217-4611 FAX (022)217-6651
愛 知 〒460-0012 名古屋市中区千代田 2-19-16 千代田ビル 3F
TEL (052)265-7101 FAX (052)265-7132
広 島 〒730-0036 広島市中区袋町 4-8 CLC ブックス 2F
TEL (082)546-9036 FAX (082)546-9037
沖 縄 〒900-0033 那覇市久米 2-25-8 メゾンズ米 202号
TEL (098)943-9215 FAX (098)943-9216
U S A Ainote International c/o Mr. Takehiko Fujikawa
8010 Phaeton Dr. Oakland, CA94605
TEL (510)568-4939 FAX (510)293-0940

毎月、飢餓対策ニュースを皆様にお届けするため、ひばり障害者作業所(八尾市)、生活愛関西地区のボランティアの皆様が発送作業のご協力をして下さっています。

■発行者 岩橋竜介

■発行所 一般財団法人 日本国際飢餓対策機構

ハンガーゼロ
で検索!

Webサイトアドレス http://www.jifh.org/
eメールアドレス general@jifh.org
フェイスブック https://www.facebook.com/hungerzero

■募金方法 ※各種方法で随時受付中、詳しくは電話やウェブサイト

●郵便振替 00170-9-68590 / 日本国際飢餓対策機構

●他の金融機関からの自動振替 ●クレジット、デジタルコンビニ

今すぐ
募金
ができます!

銀行からの自動振替
ゆうちょ銀行
そのほか金融機関

クレジットカード決済
VISA

コンビニ決済で現金振込
ファミマート FamilyMart
ミニストップ Lawson
セブンイレブン 7-Eleven

かざして募金

「かざして募金」はスマートフォンからご利用できます。募金は、ソフトバンクモバイル(株)経由となります。詳しくはウェブサイトをご覧ください。



★T-POINTに貯まる「南スーダン・マブイ小学校給食支援」が、T-POINTの活動地です。



ウガンダ・カサーレ小学校教育支援

子どもたちの教室が遂に完成!!

私が訪問した時、カサーレ小学校の新校舎には、まだドアと窓がついていませんでしたが、コロナバス校長先生は、地域の人たちが教室用のレンガを焼くために集まった新校舎裏手の場所や、教室ができるまで子どもたちが身を寄せて勉強しているマンゴーの木などを見せてくれました。そして子どもたちによりよい教育の機会を与えたいと願い、その実現のために地域の人たちが一丸となって働いた証であると、誇らしげに私たちに語りました。

カサーレ小学校は、2000年初めに地域の教会によって始められましたが、生徒数の増加に伴う教室不足のため、やむを得ず3クラスが常に野外のマンゴーの木陰で勉強していました。近くを横切る通行人や牛の群れに授業が中断されたり、雨が降れば授業が中止されたりするので、どんどん勉強が遅れていきます。また太陽や風雨

に晒された机や椅子は次々痛んでいき、教師も保護者も新しい教室を切に望んでいました。

日本の支援者に感謝

2014年秋、FHVウガンダとカサーレの人たちの要請に応え、JIFHは新校舎建設の支援を決定しました。教室ができれば子どもたちの出席率が上がるだけでなく、授業への集中力も上がると期待されます。村の人たちは教室建設に必要なレンガを、土をこね、火で焼いてレンガを自分たちで作ると表明しましたが、建設費用が不足していました。教室の建設には5万ドル(600万円)が必要だということがわかり、JIFHは2014年のクリスマス・正月キャンペーン(レンガ募金)などで支援を呼びかけました。それに応じてくださった日本の皆さんのお蔭で、カサーレ小学校の子どもたちは、集中して勉強できるようになり、未来を切り開いていく機会を得ることができました。

村人の協力があつてこそ

カサーレ村のピーター長老は、子どもの未来のためにと教室建設を強力に推し進めた1人です。尊敬する人が先頭に立ったことが他の村人たちを勇気づけ、レンガを

作る人、食べ物を用意して持つてくる人と、それぞれが自分にできることで新校舎の建設に貢献するようになりました。こうして村の人々が力を合せて教室建設に貢献したことで、村人同士の距離が縮ま



ピーター長老⑥に協力を感謝するFHVウガンダのポール

り、自分たちにもできるんだという思いが強くなりました。その1人サウダさんは、新校舎で使う机を作るため、自宅の庭にある大きな木を寄贈すると申し出ています。

カサーレ村の皆さんは、新校舎の感謝と期待を満面の笑顔で表現していました。この秋、新学期が始まる頃には、全校生徒が教室で授業を受けることができるようになってはいます。窓からマンゴーの木を見る度に、子どもたちは教室で勉強できる喜びを味わい、明るい未来を拓いてくださった日本の支援者の皆さんの温かい心に感謝することでしょう。

(報告:国際渉外部 ジェン・ヒル)



母親たちはFHVウガンダの貯蓄プログラムにも参加しています



日本全国に20ヵ所の有料老人ホームを展開する日本ロングライフ(本社大阪市)は、当機構を通じて飢餓と貧困に苦しむ人々の支援や子どもたちへの教育支援をしてくださっています。高齢者の介護事業に取り組む企業として、どのような思いで支援してくださっているのかを桜井社長に伺いました。



お客様に世界の現状を知る機会を

日本ロングライフ(株) 桜井ひろみ社長

自販機にあるアフリカの子ども
の写真を見て、ご近所の方や通り
すがりの子どもたちも関心を持っ
てくださいますし、私どもの理念
の一部をこの自販機を通して知っ
ていただくこともあります。

Q JIFHの親善大使のソン・ソル
ナムさんや児童合唱団を招いての
すみれコンサートの反響はどうで
したか。

桜井 はい、ソルナムさんは音楽
の中に神様からのメッセージがあ
る演奏で、とても好評でした。ま
た、児童合唱団に来ていただいた
ときも、自分の孫に接しているよ
うな感じて、とても嬉しそうにさ
れていたのが印象的でした。

援することで世界の貧富の差や開
発途上国の現状について関心を
持っていただけますし、再び広い世
界を身近に感じられるようです。

またご自分の存在が他者を支え
ることで、はりあいを感じたりし
ていただけるのではないでしょ
うか。まだ里子支援は始めたばかり
ですが、里子の成長をみることで
エネルギーももらえることと思
います。

Q 里子たちに対する期待を込め
てひと言をお願いします。

桜井 里子さんがそれぞれに可能
性を持っておられるので、何でも
チャレンジできる世界になるよう
にお祈りしたいと思います。

全施設で里子を支援

Q また全国20ある各ホームで、
それぞれチャイルド・サポーター
となって途上国の子どもを支援し
てくださっていますが。

桜井 先ほど申しましたようにお
客様に社会との接点を持っていた
きたいので、途上国の里子を支



自販機設置箇所「ロングライフクイーンズ塩谷」



9月12日「ラビアンローズ緑地公園」での、すみれコンサートに出演したシオン児童合唱団とともに





ケニアでVOCセミナーを開催

持続可能な地域変革実現のために

2012年のニジェール、2013年のコンゴ民主共和国に続き、2015年はケニアでVOCセミナー（コミュニティ主導の持続可能な地域変革研修）が行われました。

JIFHの海外プロジェクトアドバイザーであるランディ・ホーク氏（国際飢餓対策機構連合会長）を講師に迎え、当機構の協力団体のナイロビのシーブケア学校（8/10-12）とキスム県ニャカチのシーブケア学校分校（8/14-15）の2カ所で実施されました。

どちらのセミナーも、近隣の数カ所のコミュニティから学校関係者、実業家、牧師や教会リーダーなど社会のいろいろな立場の人々が集まり、ナイロビは60名、ニャカチは40名の参加者がありました。

私たちに必要なものだ！

ナイロビでは動画やパワーポイントを用いましたが、ニャカチでは電力が途切れるというハプニングに見舞われて、模造紙にマジックペンで書きながら「問題点ではな

く、自分たちの地域が持っている強みに、まず目を向けよう！」「問題の根底にある“物の考え方”に着目しよう！」「今すぐできる小さな変革から取りかろう！」などシンプルな言葉で語られるコミュニティ主導の変革の方法に、参加者からは、「これまでとは全く違うパワフルなセミナー！」「これこそ私たちに必要だったもの！」「すでに力を感じる」などの声が次々と上がり、みるみるみんなの目が輝き始めました。

地域の未来の姿を描く

それぞれの地域の10年後の姿



どうすれば自分たちの地域を変革できるのかと語り合う参加者（ナイロビ②とニャカチ）

を描くというセミナー後半のグループワークでは、みんな楽しそうに語り合い、望む未来の姿を描いていきました。「自分たちで力を合わせて貯水池を掘る」「土壌の浸食を食い止め、水源を確保するために木をたくさん植える」「古い中学校の校舎を利用して、村に大学を創る」などのビジョンを発表する時には、堂々とした笑顔で、喜び、希望、力が溢れるようでした。

JIFHパートナーも集結

ナイロビのセミナーには、コンゴ民主共和国から当機構協力団体であるハンス・オブ・ラブ のジェ



アフリカ各地からパートナーが集結（ナイロビ）



ランディ・ホーク氏

ローム・カセバ代表、ルブンバシのシンバ氏とフランコフィル氏またウガンダからはアガペホスピタルミニストリーのモーゼス氏が参加され、アフリカにおいてコミュニティ主導の変革を進めていく仲間として連絡を取り合い、励まし合っていたいとの声が聞かれました。また、ナイロビのセミナーに参加されていたビショップ夫妻は、「私たちだけではなく、これからコミュニティを背負っていく次世代にもぜひ聞かせなければ！」と2日目には息子さんたちを連れて参加されました。

また、ニャカチでのセミナーにも両日参加され、各コミュニティのビジョンの実践へのサポートに意欲を見せていました。

ニャカチの第一歩

その後の報告によると、ニャカチの人々はセミナーで学んだことを即実行に移す



地域の未来はこんなふうにしていきたいと参加者（ニャカチ）

ため、何とセミナーの4日後に再び集まっていました。セミナーで学んだ人から内容を聞いてやって来た人たちもいて、更に社会の様々な分野を網羅するグループになっていました。新たなグループで、再び自分たちの地域の強みと問題を話し合いました。

そして、コミュニティ主導の変革の第1歩として合意されたのが、水問題の解決でした。

これまでも個々の家庭で雨水を溜める池を作っていましたが、規模が小さくて乾季には涸れてしまっていました。

しかし、「1人の力は小さいけれど、みんなで力を合せてやればきっとできる！」と地域の共同貯水池を掘ることにしたのです。みんなにとって最適な場所が選ばれ、地域の未来のためにと所有者の女性は土地の提供を快諾してくれました。

地元自治体から驚きの提案

さて、貯水池を掘ることになっていた金曜日の朝、午前6時という早朝にも関わらず、それぞれ家にある道具を手に、みんなが続々と集まって来ました。さっそくみんなで楽しく歌いながら、土を掘り



水問題の解決から始めよう！

ニャカチでのセミナー参加者が主導してコミュニティの課題克服へのチャレンジがスタート

始めると、不思議なことが起こりました。老若男女おおぜいの村人が集まって働く姿が注目を集め、それを聞きつけた地元自治体から、何と援助の申し入れがありました。

ケニアのニャカチでは、新しい何かが動き出しています。地域を、そしてやがて世界を変えるコミュニティ主導の変革の歩みが始まっているのです。

サポーター募集中

ぜひハンガーゼロサポーターとなって地域の人々の自立のために応援をお願いいたします。最終頁の申込み欄やウェブサイトからも手続きができます。

世界里親会 山田香菜

5月に実施した里子訪問ツアーでは、7年余の支援を終えるアンロンベン地域で3家庭を訪ねました。行く先々でFHカンボジアのスタッフは、「ここはとてもきれいでしょ。この家族はFHに教わったように、掃除をきちんとしているのよ」と感動したような口調で私たちに話すのです。私はちょっと不思議に思っていました。

しかし、新しく昨年活動が始まったスバイルー地域での家庭訪問で車から降りた瞬間、先に訪問した3軒の家が「とてもきれい」といわれる理由が分かりました。

家の回りには剥がれ落ちた大きなトタン板、ペットボトルや布切れ、ビニール袋などが散乱（写真⑥）していたのです。このような物が散らばっていればケガをする危



険性があり、ゴミなどは腐って害虫が発生し、衛生上良くないことが容易に想像できました。

繰り返し励まし続ける

子どもたちが元気に学校に通うためにも、保護者が元気に働いて

生計を立てるためにも、家族の健康維持は欠かすことができません。これまで世界里親会では、支援の中で人々に清潔にすることの重要性について話し、同時に実践を促してそれが定着するように何年もかけて繰り返し励まし続けてきました。

「FHカンボジア」

変化を促す取り組み

スバイルー地域

また私たちは定期的に行われているこどもクラブの集会所も訪問しました。里子を含めた小学生ぐらいの地域の子どもたちが100人以上集まっていました。その日のテーマは「清潔な服を着ること」。高学年の少女が模造紙に書かれた説明を読み上げ、それをFHスタッフが詳しく説明します。一方的な指導ではなく、小さな子どもであっても主役である彼らに役割を与えて、活動を通じて主体性を育てている様子が印象的でした。

私たちは日本から寄贈された鉛

筆を子どもたちのために持参しました。こどもクラブでプレゼントできるかどうか責任者に訊ねたところ、彼女は表情を少し変えスタッフのところへ相談に行きました。戻ってきた彼女は私たちにこう説明しました。「集会の最後に子ども全員に2本ずつ手渡ししてください。私は、『次の集会までにおうちの掃除を手伝ってくるように。そうすればもう2本あげますよ』と言います」。私はこの時、人々の自立支援の戦略として、寄せられた寄付を用いて子どもたちの積極性や能力を引き出していることを知りました。贈り物が一方的にならず、活動を押し進める助けになるように知恵を持って活用されていることに感謝しました。



このような形の支援が人々の生活にもたらす大きな変化を目の当たりにして、これからのスバイルー地域でのFHカンボジア世界里親会の活動を、大いに期待したいと思いました。

子どもたちの里親となって継続して支援して下さる皆様がおられるからこそ、子どもたちの学校生活だけではなく、家庭環境や家族の健康が支えられ、人々が希望をもって自立できるようになることをこの目で見、さらに里親さんが増やされることを願いました。

世界里親会 バングラデシュ・マチュパラ地区

ぐんぐん成長シャーディン君

FHバングラデシュの活動報告から



里子のシャーディン君（9歳）の場合

シャーディン君の家族：両親と妹1人、弟1人
父親の職業：たまねぎ・小麦・雑穀・香辛料などを主に栽培

収入：収穫した物の一部を地元の市場で売り、得た現金で必要な食べ物を買っています。しかし家族全員が食べ、生活するには充分ではなく、父親は時々シュティアという町へ仕事に出かけます。

【支援内容】

収入不足と経済活動をするための資金の不足に対して

マチュパラ地区は歴史的に貧困が根付いていて、小額の借入れを受けてもそれを家計の足しに利用してしまい、資産の形成には用いられていませんでした。そのために貯蓄グループを作ってお互いに資産の管理を行っています。貯蓄グループでは、各メンバーがそれぞれ20タカ（約30円）など約束した額を週ごとに持ち寄り、集まったお金を積み立てて希望するメンバーに貸し出して投資をします。グループのメンバーが一つの目標を目指すことで、メンバー間に信頼が生まれ、貸し出しをする際に利用者を信用するようになることも貯蓄グループの利点一つです。

両親へのサポート

シャーディン君一家が貧困から脱することができるようにFH職員が家族と関わり、母親を貯蓄グループに誘っています。シャーディン君の母親自身も将来を考えて貯



蓄を始めました。また貯蓄グループでは、健康、衛生、法律、価値観の学びなどもしています。

里親さんありがとう

FH職員はシャーディン君に、学校に出席する大切さを話し、勉強もサポートしています。学校の先生とも話し合いました。またFHの子どもクラブに誘った結果、シャーディン君は健康診断の日やクリスマス会などの行事にも参加するようになりました。

シャーディン君が学校に通い始め、FHの子どもクラブ活動にも参加することによって想像力も養われ、歌を歌ったり絵を上手に描いた

りできるようになりました。

また健康や清潔さに気を配るようにもなりました。シャーディン君は「里親さんに支援してもらってとてもうれしいです。子どもクラブにも参加できて楽しい！」また両親は「FHの助けによって生活を変える方法を教えてもらい幸せです」と言っています。



サポーター127名募集

マチュパラ地区ではシャーディー君のような生活をしている子ども、127名が里親さんを待っています。チャイルドサポーターとして支援して下さる方を募集中です！支援についてのご質問と申込みは大阪事務所に電話又はウェブサイトから。